

平成29年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組（☆）を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成29年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

平成29年4月18日（火）

4 調査の内容

(国語、算数・数学) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題（Ａ） ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 【小学校国語Ａ・算数Ａ 各２０分】 【中学校国語Ａ・数学Ａ 各４５分】	主として「活用」に関する問題（Ｂ） ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など 【小学校国語Ｂ・算数Ｂ 各４０分】 【中学校国語Ｂ・数学Ｂ 各４５分】
	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも２０分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

本校の調査結果の概況

国語	Ａ（主として「知識」に関する問題）				Ｂ（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	4	76.2	74.0	75.4	3	71.9	71.7	72.4
書くこと	4	83.4	84.4	85.7	4	63.2	60.6	60.8
読むこと	6	69.7	71.6	73.8	4	77.2	71.4	72.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	77.7	76.0	77.2	1	43.4	41.4	41.4

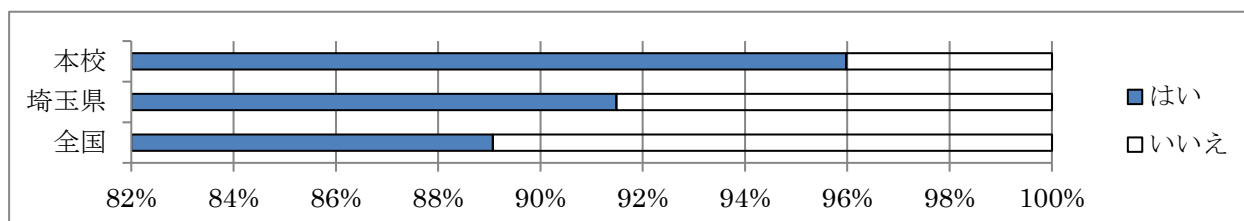
数学	Ａ（主として「知識」に関する問題）				Ｂ（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	12	65.4	68.9	70.4	3	42.0	44.6	46.3
図形	12	63.3	65.2	66.0	6	46.6	47.4	47.1
関数	8	53.6	55.5	57.4	3	50.3	50.0	50.8
資料の活用	4	54.9	57.3	57.6	3	46.1	48.9	49.1

<生徒への質問紙調査>（主なものをグラフで表示）

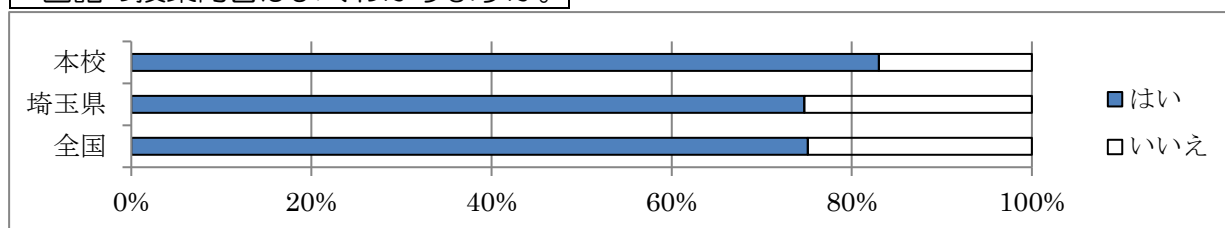
国語の勉強は大切だと思いますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

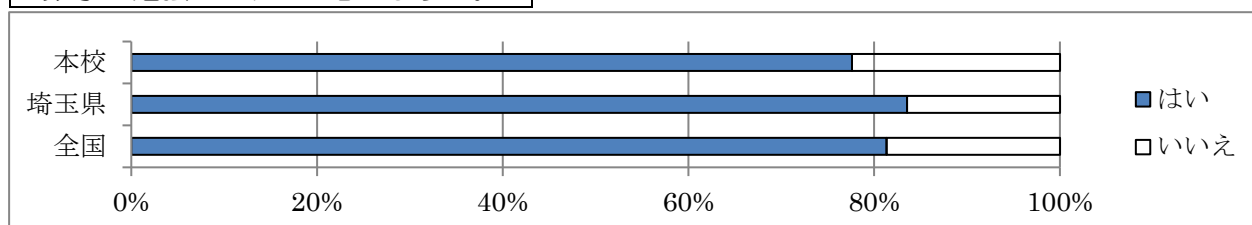
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



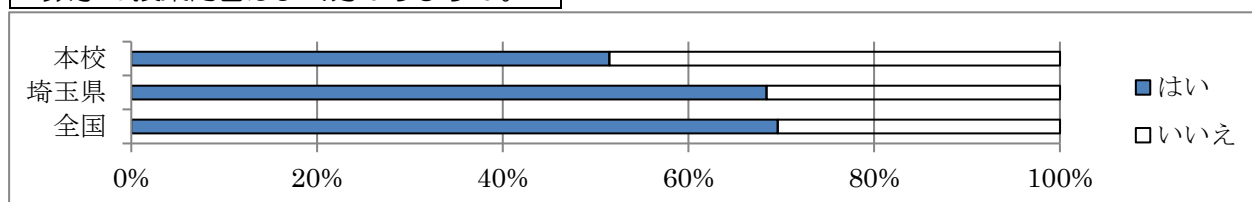
国語の授業内容はよくわかりますか。



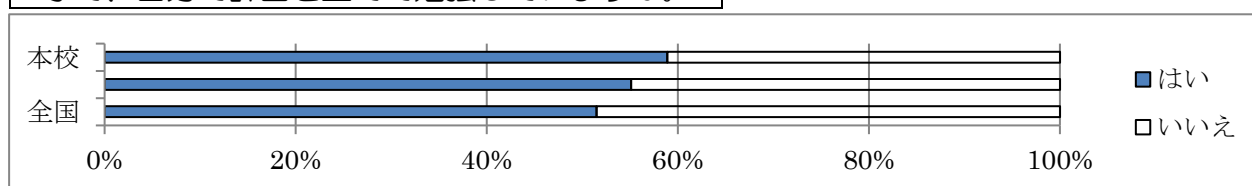
数学の勉強は大切だと思いますか。



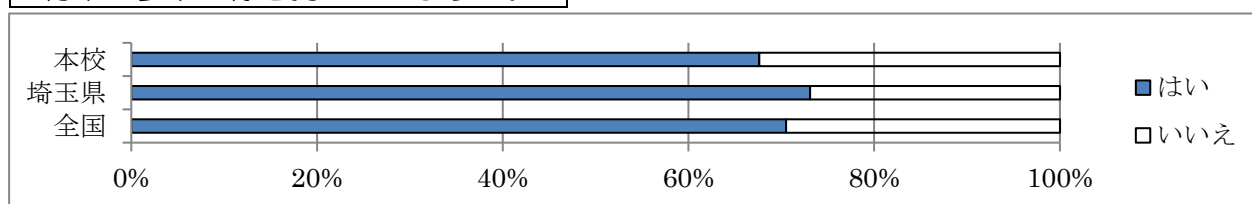
数学の授業内容はよく分かりますか。



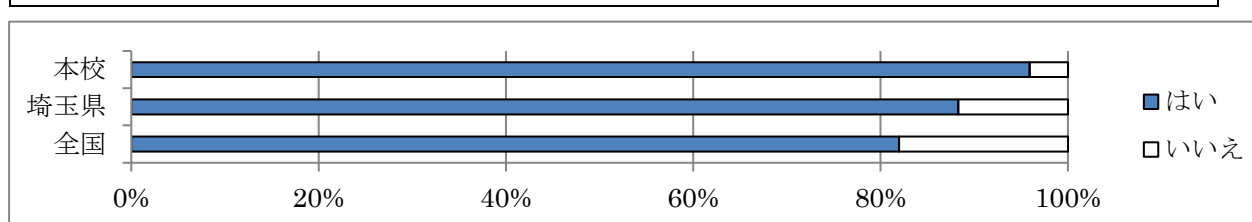
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



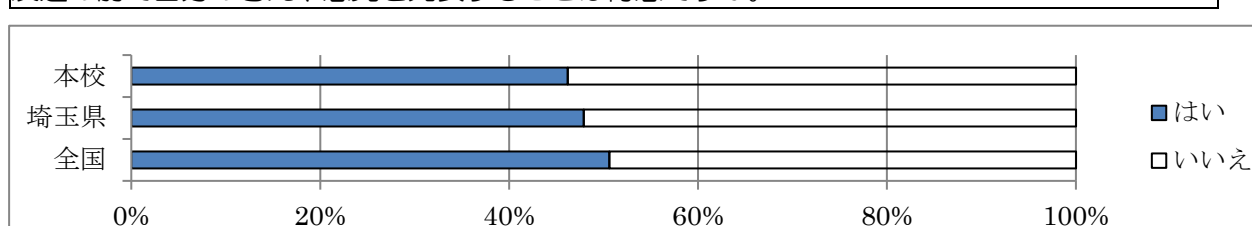
将来の夢や目標を持っていますか。



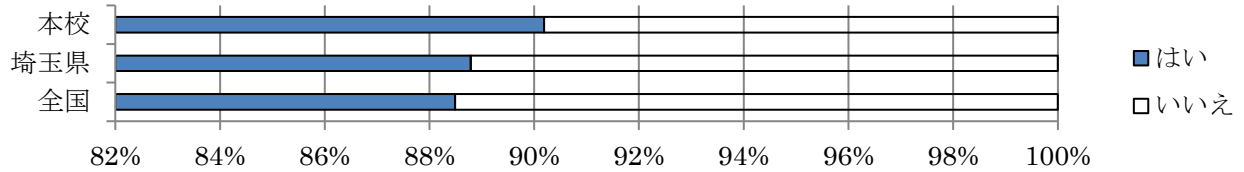
1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



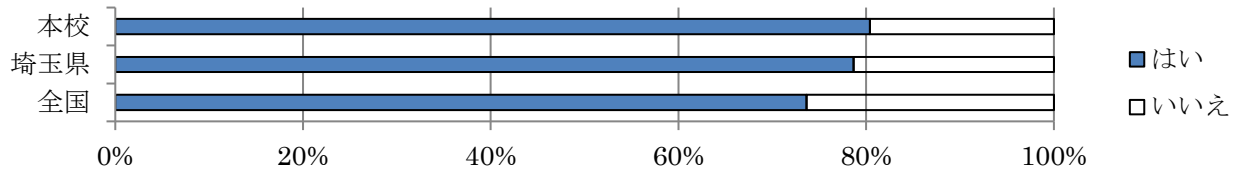
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか。



1,2年生の時に受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

＜国語A＞

【領域別の分析】

《話すこと・聞くこと》では（本校 76.2 > 全国 75.4）とわずかに上回っている。「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」ことの設定問では、全国を 2.4 ポイント上回った。

（本校 90.2 > 全国 87.8）

《書くこと》では、（本校 83.4 < 全国 85.7）と下回った。「文章の構成を工夫してわかりやすく書く」ことの設定問では、全国よりも 4.1 ポイント下回った。（本校 75.7 < 全国 79.8）

《読むこと》では、（本校 69.7 < 全国 73.8）と下回った。「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」では、2.5 ポイント下回った。（本校 56.6 < 全国 60.1）

《伝・国の事項》では（本校 77.7 > 全国 77.2）と上回った。漢字の読み書き、慣用句や敬語、辞書の意味、古典での仮名遣いや意味がかなり定着していると思われる。また「話し言葉と書き言葉を理解する」設定問では、5.9 ポイント上回った。（本校 87.3 > 全国 81.4）

【問題 2 二】《話すこと・聞くこと》

設問

スピーチをよりわかりやすくするために、イラストを提示する箇所として適切なものを選択する。

出題の趣旨：場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。

解答 4

〈分析〉

☆正答率 本校 90.2 > 全国 87.8

★誤答 1：1.2 %

2：4.6 %

3：4.0 %

無解答：0.0 %

※イラストを用いた問題では、今までの学習の

【問題 8 二】《読むこと》

設問

二人の交流の様子について説明したものとして、適切なものを選択する。

出題の趣旨：文章にあらわれているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広げる。

解答 4

〈分析〉

☆正答率 本校 64.7 < 全国 72.3

★誤答 1：17.9 %

2：5.2 %

3：9.8 %

無解答：1.7 %

※文章からものの見方や考え方について、自分の体験をもとに考えを広げることは苦手

中に、「イラストや図表などから、自分のわかることを読み取る」という活動を行っているので、正答率が高かったのではないかと考える。 ※今までの学習内容の中で、様々な「聞き取り調査」と呼ばれる学習を行ってきた。その成果があったのではないか。	あるようである。自分の考えを、他者と比較して広げることを、今後授業でも取り入れていきたい。
---	--

<国語B>

【領域別の分析】 全体的に大きく、全国の平均を上回る結果となった。(本校 75 > 全国 72.2) 《話すこと・聞くこと》(本校 71.9 < 全国 72.4) では、下回る結果は見られたものの、多くの問題より上回るものが多かった。 《書くこと》(本校 63.2 > 全国 60.8) では、2.4 ポイント上回った。 《読むこと》(本校 77.2 > 全国 72.1) では、5.1 ポイント上回った。問題を見ると、約6ポイント以上も上回った問題もあり、多くの問題から正答率が高く得られた。 《伝国の事項》(本校 43.4 > 全国 41.4) では、2.0 ポイント上回った。	
【 問題 2 ー 】《話すこと・聞くこと》 設 問 スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する。 出題の趣旨：目的に応じて資料を効果的に活用して話す。 解 答 2 〈分析〉 ☆正答率 本校 83.8 > 全国 85.4 ★誤答 1：1.2 % 2：4.6 % 3：4.0 % 無解答：0.6 % ※実演を行った「意図」を考える問題であり、この「意図」が読み取れない生徒が多くいたのではないかと考える。 ※授業の中で「意図」や「理由」などを明確にした問題に多く取り組ませたい。また問題形式として、スピーチ原稿などを書くときにより多く取り組ませ、自分の考えを明確にさせて、発表させたい。	【 問題 1 二 】《読むこと》 設 問 地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す。 出題の趣旨：場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する。 解 答 父 〈分析〉 ☆正答率 本校 91.3 < 全国 84.1 ★誤答 上記以外の回答：4.6 % 無解答：4.0 % ※文章から人物を探す問題。ほぼ90%以上の生徒が「父」や「父に関する表記」を書くことができた。文章中から答えを探す問題は、生徒たちにとって容易であり、点数も伸びやすいものであるとわかった。

<数学A>

【領域別の分析】

すべての領域において、県・全国の正答率を下回っている。最も下回っていたのは、「数と式」の5.0ポイントである。全体的に見ても、既習事項の定着ができていない。

【1 (2)】

a と b が負の数のとき、下のアからエまでの計算のうち、計算の結果が必ず負の数になるものがあります。正しいものを1つ選びなさい。

ア $a+b$ イ $a-b$ ウ $a \times b$ エ $a \div b$
 答え…ア $a+b$

【出題の趣旨】

2つの負の数の和は負の数になることを理解している。(数量や図形などについての知識・理解)

〈分析〉

- ・正答率 56.6% < 68.8% (県)
- ・無解答率 0.6%
- ・最も多い誤答は、「イ $a-b$ 」であった。これより、減法が最も小さな値になると勘違いしている生徒が多いと予想できる。
- ・正負の数の学習では、正の数と負の数について理解し、四則計算の意味を理解することが大切である。

【4 (3)】

半径が5 cm、中心角が 120° のおうぎ形の弧の長さを求めなさい。ただし、円周率は π とします。

答え… $\frac{10\pi}{3}$

【出題の趣旨】

おうぎ形の弧の長さを求めることができる。
 (数学的な技能)

〈分析〉

- ・正答率 30.1% > 28.8% (県)
- ・無解答率 19.1%
- ・正答率は県を上回ったが、無解答率が最も高い設問であった。おうぎ形に関する知識が不十分である。
- ・最も多い誤答は、「 $\frac{25\pi}{3}$ 」であった。これは、おうぎ形の弧の長さの求め方と面積の求め方を混同していると考えられる。
- ・授業の中で、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができるようにするために、おうぎ形を円の一部分として捉え、弧の長さや面積が中心角の大きさに比例することを確認する場面を設定する。

【14 (2)】

ある市の平成28年6月1日から30日までについて、日ごとの最高気温の記録を調べました。下の度数分布表は、その結果をまとめたものです。22℃以上24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。

答え…0.1

【出題の趣旨】

度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。(数学的な技能)

〈分析〉

- ・正答率 30.1% < 42.9% (県)
- ・無解答率 11.0%
- ・最も多い誤答は、階級の度数を答えている「3」である。
- ・相対度数の必要性和意味について理解できるようにするために、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を授業に取り入れていく。

＜数学B＞

【領域別の分析】

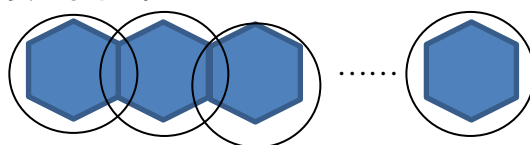
すべての領域において、県・全国の正答率を下回っている。最も下回っていたのは、「数と式」の4.3ポイントである。数学Aと異なり、「数量や図形などの知識・理解」の問題では、県・全国の正答率を上回った。しかし、無解答率が高い問題も多く、説明や記述問題が大きな課題である。

【2（2）】

図のようにストローを並べて、六角形を n 個作るのに必要なストローの本数を考えます。



（2）図のようにストローを囲むと、六角形を n 個作るのに必要なストローの本数は次のように説明できます。に当てはまる式 n を用いて表しなさい。



ストローを図のように囲むと、1つの囲みにストローが6本ある。その囲みが n 個あるので、弧の囲みで数えたストローの本数は $6n$ 本になる。このとき、2回数えているストローのが本あるので、必要なストローの本数は $6n$ 本より本少ない。したがって、六角形を n 個作るのに必要なストローの本数を求める式は、 $6n - \text{$ になる。

答え… $n - 2$

【出題の趣旨】

与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる。

（数学的な見方・考え方）

＜分析＞

・正答率 37.0% < 41.6% （県）

・無解答率 4.6%

・事象を数学的に考察できるようにするために、数量の関係や法則などを式に表したり、式を事象に即して解釈したりする活動を、授業に取り入れることが必要だと考えられる。

【5（3）】

若葉さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。

そこで、420分未満と

420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

若葉さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動量が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を。若葉さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

解答例

2つの度数分布多角形が同じような形で、420分未満の度数分布多角形よりも、420分以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、1週間の総運動量が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある。

【出題の趣旨】

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

（数学的な見方・考え方）

＜分析＞

・正答率 6.9% < 16.3% （県）

・無解答率 26.0%

・県・全国の正答率と比べ、かなり下回っている。また、無解答率も高い。多くの生徒が課題とする問題であると分かる。

・授業の中で、資料の分布の様子を捉え、説明する場面を設定していく。

＜質問紙調査から＞H29

【質問】

1、2年生のときに受けた授業では、生徒の
間で話し合う活動をよく行っていたと
思いますか。

※要因・今後の対応等

回答結果

そう <u>思う</u>	62.4 %
どちらかといえばそう <u>思う</u>	33.5 %
どちらかといえばそう <u>思わない</u>	3.5 %
そう <u>思わない</u>	0.6 %

＜分析＞

昨年度（思う 91.2%）から本年度（思う 95.9%）
+4.7ポイントである。第一に、すべての授業に
おいて意図的に表現活動を増やしたことが、言
語活動による思考、可視化を通した指導方法の
研究成果にもつながっている。思考力、判断力、
表現力等の資質と能力の育成を目指し、主体的
な学習の充実をさらにすすめます。

【質問】

家で学校の授業の復習をしていますか。

※要因・今後の対応等

回答結果

そう <u>思う</u>	28.3 %
どちらかといえばそう <u>思う</u>	35.8 %
どちらかといえばそう <u>思わない</u>	23.1 %
そう <u>思わない</u>	12.7 %

＜分析＞

昨年度（思う 61.0%）から本年度（思う 64.1%）
+3.1ポイントである。家庭での学習習慣確立を
目的とし、生徒全員が家庭学習ノートを活用し
て2ページ学習を行っています。教員のノート
指導と生徒のノート活用方法も身につけ、上記
結果は、家庭学習への取り組み状況の向上であ
ると考えます。生徒一人一人のさらなる学力の
向上を目指し、学習指導と家庭との連携をさら
に進めていきます。

【質問】

1,2年生の時に受けた授業で、生徒の間に話し合う活動では、話し合う内容を理解して、
相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。

※要因・今後の対応等

回答結果

そう <u>思う</u>	38.2 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	17.3 %
どちらかといえばそう <u>思う</u>	42.2 %	そう <u>思わない</u>	2.3 %

＜分析＞

昨年度（思う 87.6%）から本年度（思う 80.4%）を比較し、-7.2ポイントである。本校では、学校
課題研究「確かな学力を育む指導方法の研究～言語活動による思考・表現の可視化を通して」と
し、特に基礎的な知識を基盤にして言語活動を手段とした、思考力向上を目指した指導方法を研
究している。

国語＜話すこと、聞くこと＞では、A問題で0.8ポイント、B問題では2.2ポイント全国平均に上
回っていることから、一定の向上は見られた。ただし、グループ活動を重視の一方で、最終的な
自己決定まで生徒に求めることが不十分であり、この点が今後の課題である。

＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞

※「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善
を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）
<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成29年4月13日（木）

4 調査の内容

（１）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数
 中学校第1学年 国語、数学
 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（２）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	4	71.5	68.9	4	66.3	63.2	4	51.4	52.8
読むこと	9	73.4	73.0	9	60.0	59.7	9	70.5	68.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	55.7	58.8	17	56.6	57.8	17	53.5	52.4

数学	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
小学校領域	数と計算	10	58.7
	量と測定	7	59.4
	図形	7	64.2
	数量関係	8	78.2

数学	第2学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
中学校領域	数と式	12	60.8
	図形	7	50.9
	関数	7	58.6
	資料の活用	6	38.8

※ 数学の調査においては、第1学年の内容は小学校の学習内容から出題されています。
 また、第2学年においても一部小学校の学習内容から出題されています。

数学	第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
中学校領域	数と式	12	70.4
	図形	8	69.5
	関数	7	36.0
	資料の活用	5	65.3

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
聞くこと	10	65.4	63.1	10	61.2	60.9
話すこと	—	—	—	—	—	—
読むこと	21	60.6	59.4	23	56.0	55.4
書くこと	7	59.2	55.7	7	53.4	47.2

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上

内容	項目		第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻		98.7	98.7	98.9
			98.1	97.5	97.0
	② 授業開始時刻		100.0	99.4	99.4
			98.2	97.6	97.2
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ		92.5	96.1	93.7
			92.7	91.9	91.9
	④ 整理整頓		86.2	87.7	92.0
			88.0	84.9	85.8
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ		88.7	92.3	90.3
			85.1	85.2	82.4
	⑥ 返事		93.7	92.9	92.6
			90.5	88.4	86.8
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい		95.0	92.9	93.7
			92.2	90.5	89.4
	⑧ やさしい言葉づかい		95.0	93.5	90.3
			91.1	86.9	84.0
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備		95.6	93.5	91.4
			91.6	88.6	87.7
	⑩ 話を聞き発表する		81.1	83.2	72.0
			77.6	69.5	66.6
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度		96.9	98.1	94.9
			94.0	93.2	92.3
	⑫ 掃除・美化活動		89.3	92.3	92.0
			84.8	85.4	82.2

本校の学力向上の取組

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

授業における取組

☆1 授業規律の徹底

- (1) 授業の約束や宿題をきちんとやる等、きまりを守る指導。
- (2) 個別指導の時間を確保し、ティームティーチング等での指導。

☆2 学習に対する態度の育成

- (1) I（情報）C（通信）T（技術）機器等や教材教具を工夫した授業による探求心を深める指導。
- (2) 勉強する理由について、楽しいから勉強すると答える生徒が県平均と比較して10ポイント上回りました。生徒一人一人が表現をする機会のある、生徒主体でかつ対話的な授業の展開。

■3 言語環境の充実

- (1) 日常生活や授業における適切な言葉遣いの指導。
- (2) 教科指導における読解力を高めるための複雑な文章構成による説明文の指導。

授業以外の取組

☆1 家庭学習の習慣化

- (1) 毎日2ページの家庭学習継続による、家庭学習の習慣化。
- (2) 生活ノートを提出し担任が返事を書くことで、教育相談的な面からも生徒にとって安心できる学校生活があり、それらが基盤となる生活指導や学習指導。

■2 生徒一人一人に合った学力向上にむけての取組

- (1) わからないところをそのままにしないで学習しようとする意欲は県平均より低い。授業等における個別指導の一層の充実。
- (2) 補習やテスト前質問日の設定による、わかる喜びを感得させる個別学習。

本校の学力向上プラン

平成29年度		学力向上全体計画		桶川市立桶川西中学校	
・日本国憲法 関係法規 学習指導要領 ・埼玉県小中学校教育課程編成要領 ・埼玉県教育行政重点施策 ・指導の重点・努力点等		学 校 教 育 目 標 志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒		・地域の実態 ・生徒の実態 ・保護者の願い ・教師の願い ・期待される生徒像 ・学力向上に係る「学校課題」	
学校経営方針 「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」 学ぶ楽しさが味わえる「分かる授業」が展開され、生徒が意欲的に学習する学校					
目指す学校像 学ぶ楽しさが味わえる、「わかる授業」が展開され生徒が意欲的に学習する学校		目指す教師像 意欲的に研修に努め、専門職としての力量を向上させて指導		目指す生徒像 自ら学習に取り組み、基礎・基本をしっかりと身につけた生徒	
各教科の指導の重点 ○学習の動機付けの強化 ○必然的な知識・技能の活用を伴う教材、単元開発 ○言語活動の充実を図るための学習過程、学習形態の工夫 【国語】 ・学年に応じた漢字指導、「書く」場を意図的につくり言語活動を充実させる。 【数学】 ・生徒による問題解説や話し合い活動の時間を設け、生徒主体の授業を心がける。 【社会】 ・事象について考察・判断し、その成果を自分の言葉で表現する学習を行う。 【理科】 ・実験・観察→結果→考察の過程を通して基本の定着を図る。 【英語】 ・ペアやグループなどの学習形態を工夫し、自己表現の場を数多く設定する。 【音楽】 ・聴く力、感じ取る力の育成。表現、合唱づくり。 【美術】 ・制作カードの活用、発想トレーニングテスト、体験活動を重視する。 【保健体育】 ・課題を指摘しあえるようペア学習を取り入れる。 【技術・家庭】 ・生活の自立に必要な知識技能の習得、実践的な活動を重視する。		本校の課題 ・学習意欲の喚起と学習規律の向上 ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 ・既習内容を活用した思考力・表現力の向上		各領域等の目標及び内容 【道徳教育】 ・生徒の心に響く、考え議論する道徳の授業実践を図る。 ・学校の教育活動全体を通して、道徳的実践力の育成を図る。 【特別活動】 ・望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係を築き、集団の一員としての役割と自覚をもって行動できる生徒を育成する。 【総合的な学習の時間】 ・自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を育てる。 ・学び方やものの考え方を身につけ、探求した内容を発信していく自己表現能力を育てる。 【生徒指導】 ・学習規律や生活規律について共通理解を図り、職員の共通行動を徹底する。 ・生徒指導体制の見直し、改善を図る。	
④課題の絞り込み ○新たな課題の確認と分析 ・次年度の教育計画、全体計画、年間指導計画への位置づけ ・課題解決プランの見直しと修正 ・校内分掌体制の見直し		①課題を解決するための計画 ○学習状況調査等を元にした指導計画・指導方法の改善案の立案 ・全職員に共通理解を図る。 ・保護者、地域住民への広報活動(懇談会、学校だより) ・課題解決プランの作成			
A↑		PDCA スパイラル		↓D	
③実態の把握 ○多方面からの学校・職員・生徒の実態把握 ・学力調査(国・県・校内実力テスト)等による生徒の実態の把握 ・学校評価による本校教育活動の成果と課題の把握		②計画に基づく指導の実践 ○課題解決プランに基づく全職員共通行動による指導の実践 ・各教科等の指導の実践 ・校内研修の充実と実践 ・関係諸機関との連携 ・地域、保護者との連携			
改善状況を把握する指標の設定 (H29全国学力・学習状況調査による) ○学習評価(正答率)の設定(全国平均を基準とする) 国語A正答率 全国平均より0.4ポイント下 国語B正答率 全国平均より3.2ポイント上 数学A正答率 全国平均より3.6ポイント下 数学B正答率 全国平均より2.1ポイント下 ○質問紙調査における回答率の設定「あてはまる」「ややあてはまる」 「生徒間で話し合い活動を行っているか」 85%以上 「800～1200字で感想文や説明文を書くことは難しいか」 70%以下 「自分の考えを説明したり文章を書くことは難しいか」 70%以下					
I		II		III	
IV					
改善の観点		指導内容・指導方針の工夫		教育課程編成上の工夫	
学習評価活動の工夫		家庭・地域社会との連携の工夫			
取組の基本方針		基礎・基本の着実な定着とそれを活用する場を設定すると共に、学習形態の工夫をする。		授業時数を確保し、生徒の実態を把握した、指導計画、教材の準備等を計画的に行う。	
生徒のよい点や進捗状況の積極的評価を指導に生かす。		生徒の生活習慣や学習習慣を身につけさせる。言語活動を充実させる。			
課題解決のための具体的取組		○学力向上に向けた計画的な取組 ・少人数指導、TT指導、個に応じた指導 ・定期テストへの取組(補習、質問日の設定)		○各教科、各学年間の系統的、発展的指導の工夫 ・単元配当時間の工夫 ・思考力・判断力・表現力を高めるための授業展開の工夫改善 ・情報活用能力の育成と情報モラル指導	
年間指導計画に基づいた評価計画の作成 ・学習目標の明確化とシラバスの作成 ・生徒の自己評価や相互評価を生かした評価能力の向上		○家庭への啓発と評価の実施 ・朝の登校指導、あいさつ運動 ・親子除草、西中サポーターズ ・祭巡回指導(祇園、日出谷、川田谷) ・落ち葉掃きボランティア			
関連する行事等		・朝読書 ・教育支援担当者訪問 ・学校課題研究発表(11/22)		・校内研修 ・学校課題研修推進委員会 ・教育課程編成委員会	
通知表 ・テスト個票		・学校、学年、学級だより ・授業参観、保護者会、公開日 ・PTA総会、バザー			

保護者・地域の皆様へ

本年度学力状況調査から、県学力状況調査質問紙において、〈けじめのある生活、礼儀正しく人と接することができる、約束やきまりを守ることができる〉の3つの内容で、1，2学年は12項目中12項目が県平均を上回り3学年も12項目中11項目において県平均を上回っています。これらは、生徒一人一人が落ち着いた生活を送り、学習にも前向きに取り組んでいると考えます。

本校では、学校課題研究の取組として「確かな学力を育む指導方法の研究～言語活動による思考・表現の可視化を通して」をテーマに継続して研究をすすめています。特に、学習においては、基礎的・基本的な知識が定着し、思考力・判断力・表現力が身につけて学習への意欲や学力の向上にもつながります。

今後も生徒一人一人が向上心をもち健康に学校生活を送れるように、教育活動を進めてまいります。また、ご家庭との連携を深め、学校と家庭の双方で学習習慣が確立できるように徹底して指導します。

生徒は地域や地域の人々との触れ合いからも多様に学んでいます。学校、家庭そして地域において生徒の育成をできるように学校だより等からも情報を発信してまいります。